

上級漢字教材作成プロジェクトについて（太田・藤田・中村）

# 上級漢字教材作成プロジェクトについて

太田 亨・藤田佐和子（金沢大学留学生センター）・中村 朱美（佐賀大学留学生センター）

## はじめに

本稿は、金沢大学留学生センター（以下「センター」と略記）の総合日本語コース（以下「総合コース」と略記）の漢字 E 及び F クラスで使用するための教材作成プロジェクトである「上級漢字教材作成プロジェクト」の立ち上げに関わってきた筆者ら<sup>注1</sup>による、プロジェクトの進捗状況を報告するものである。

I～Ⅲのプロジェクトの概要からデータベース化までを太田が、Ⅳ～Ⅴの予習ページと文章ページを藤田が、そしてⅥ～Ⅶの問題ページと小テストページを中村がそれぞれ担当しているが、Ⅷは全員で共同執筆した。

## I．本プロジェクトの背景

さて、本プロジェクトの開始は、総合コースの創設に伴い漢字クラスを日本語クラスとは別に設定し教科書として筑波大学の『Basic Kanji Book1』、『Basic Kanji Book2』と『Intermediate Kanji Book1』（以下それぞれ BKB1、BKB2、IKB1 と略記）を採用した時点に遡る。

総合コース内の漢字クラスでは、BKB1と BKB2は初級レベルの A～B クラスと中級レベルの C クラスで使用し、IKB1は中級レベルの D クラスと上級レベル<sup>注2</sup>の E クラス（但し 2 課分のみ）で使用するようになっていたが、E クラスの残りの授業と、同じく上級レベルの F クラスで使用するべき教科書が存在していなかった。<sup>注3</sup>（太田 2000：145）

そこで総合コースの目標である、「大学で使うための日本語力を伸ばす」（太田2000：144）という抽象的目標をより具体化させて、『日本語能力試験出題基準（以下「出題基準」）』の 2 級レベルの漢字から IKB1までの漢字を差し引いた324字に、同じく 2 級

注1 平成12年7月時点までで、その後中村が佐賀大学に転出した。

注2 ここで「上級」とは、あくまでも総合コースでの上級クラス（E・Fクラス）を指す。

注3 2001年に『Intermediate Kanji Book2』（IKB2）が出版されたが、本プロジェクトはそれ以前に始まったものであることは言うまでもない。

の付表の56語をあわせて選定し、BKB1からIKB1までの740字とあわせた合計で「1,064字+56語」を総合コースのE・Fクラスで扱う漢字と認定した。(国立国語研究所1976) この324字を音読み(ないものは訓読み)で五十音順に並べ、ほぼ真ん中の167字と168字の間で区切って暫定的に前半をE、後半をFに振り分け、授業で扱う必要から各13課分に配置した。(資料1参照)

## II. 各漢字に盛り込む情報・問題等の内容

本プロジェクトにおいて、筆者らは324字ある各漢字に対して様々な情報や問題等を盛り込みたいと考えた。漢字情報と練習問題では自ずと質的な差があるだけでなく、「問題」と一言と言っても様々な種類のものがある。そこで本プロジェクトでは、情報や問題の種類ごとに「ページ」という形で独立したユニットを立て、それらを統括的にまとめる漢字情報源としての「予習ページ」をその上に立てることで筆者らの意見集約を図ることにした。図1はページ間の構造を図式化したものである。

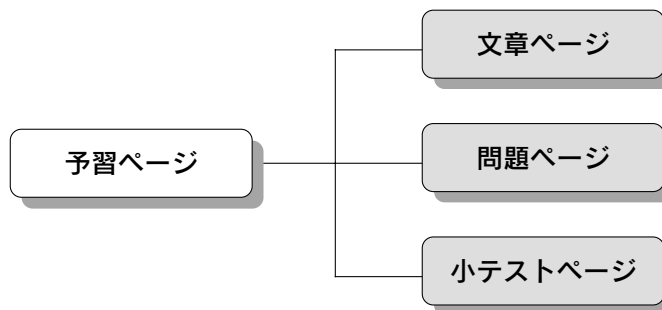


図1 ページ間の構成

## III. データベース(DB)化と今後の発展の可能性

図1のような階層化構造を有し、しかも300以上もの漢字をある一定のフォーマットに従って配置し管理するに当たってはDB化が欠かせない。

また、「出題基準」の漢字は太田がすでにClariss社(作成当時)のファイルメーカーProでDB化してあったので、そのデータをリレーション化(後述)して活用するため、今回の上級漢字プロジェクトのファイル作成に当たってもファイルメーカー社(現在)のファイルメーカーPro v.5の使用を前提にして作業に取り掛かることにした。平成13年12月現在までに、DBの索引的機能を持つ「予習ページ」の入力作業がすでに完了している。

DB化の利点は様々あるが、主に次の2点に集約できる。

- 1．様々な項目でキーワード検索が可能である。（例：部首，画数，音訓読み，等）
- 2．Web 上に公開可能で遠隔地から閲覧できる。

次に，今回入力完了した「予習ページ」（Vの3参照）の概略をまとめると次の4点が挙げられる。

- 1．フィールド数：29（繰り返しフィールド数も含めると合計84）
- 2．リレーション：「出題基準」の漢字を参照して日本語能力試験の「級」が自動入力される。（図2参照）
- 3．見出し字のフォントを「教科書体」にしてある。
- 4．筆者らが基本的と判断した読みと意味に基づいた基本練習を熟語レベルと文レベルで掲載した。

また，ファイルメーカー Pro の持つ様々な機能を生かして，今後はこの DB を次の2つの方向に発展させる予定である。

- 1．他のページの DB 化に努めて予習ページとリレーション化させる。
- 2．予習ページを Web 上に公開して学生が自宅から閲覧できるようにする。

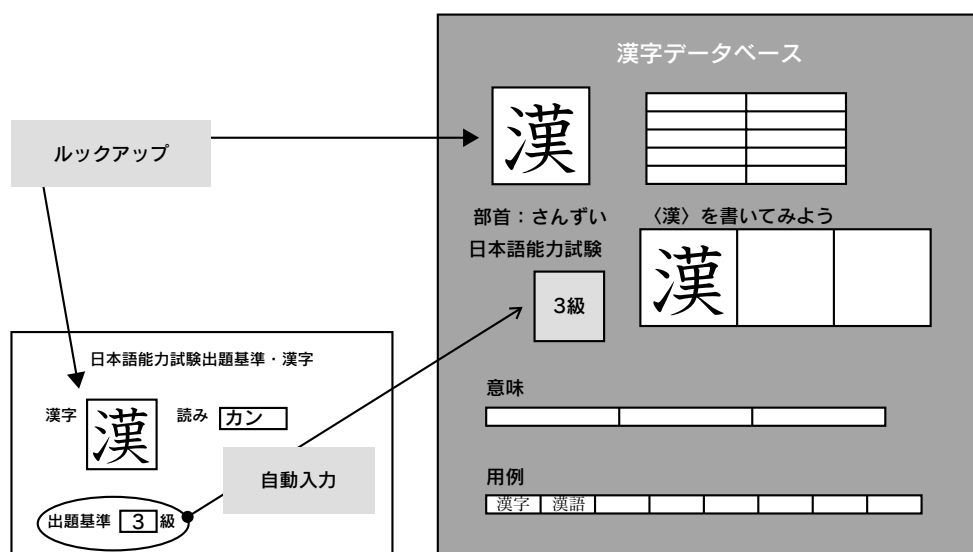


図2 ファイルメーカー Pro によるリレーション概略

## IV．予習ページ

### 1 概要

総合コースの漢字クラスに来る学生の場合，その漢字能力には大きな差があるのが通例である。漢字圏の学生と非漢字圏の学生が同じクラスにいるために，書くことにまったく問題がない学生と，書けるまでに多くの労力が必要な学生が同じ授業を受け

ることになる。漢字クラスは現在 A から F までの 6 レベルに分けられているが、藤田が担当している F レベルの 1 クラスを見ても学生の能力差は大きい。2000 字知っているという者もいれば、500 字も怪しい者もいる。書道の師範の資格を持った者がいるかと思えば、書くのもたどたどしい学生がいるといった具合である。

このような学生たちを、週 1 コマという限られた時間の中で同時に指導する場合、どのようにすれば有意義な授業が行なえるだろうか。漢字能力の劣る学生が理解できて、漢字能力に優れる学生にとって退屈でない授業ができないだろうか。金沢大学の場合、どちらの学生も知的なレベルは非常に高いので、授業は彼等の知的好奇心を満たすもの、ありきたりな単純な作業にとどまらないものにしたいという思いがある。

そこで考えられたのが予習ページである。基本的な意味・読み・書きを予習ページとしてあらかじめ学生に与えておく。その内容は、学生が授業に来る時には最低これだけは知っていてほしいと教える側が考えるものである。

このようにして、漢字能力の低い学生でも、授業の時には「その漢字が使えないまでも基本的なことくらいは知っている」という状態まで持ち上げておけば、漢字能力の高い学生にとっては無駄になる時間を省くことができ、運用の練習や大学の授業らしい発展的な問題を行なうことが可能になるだろう。

漢字能力がある程度以上である学生には、このページで自分が知っているということを確認さえしてもらえばよい。そのような学生と「こんな漢字見たこともない」という学生と一緒に学ぶために、そして双方に有意義で大学にふさわしい知的興味を満たす授業を行なう環境を整えるために、このページは設けられることになった。

## 2 基本構想

予習は各自が自宅で行なうものである。したがって、自分でできる程度のもの、あまり負担が多くならないものであることが望ましい。

漢字能力の高い学生にとって予習ページがどのような意味を持つかを考えてみると、「自分はこの漢字が書ける、読むこともできて、意味も知っている」と確認するためのページであると考えられる。したがって、あまり学生の負担にならないボリュームで、短時間で行なうことができるものが望ましいと考えられる。

その漢字がはじめてという学生の場合には、もちろん基本的な意味・読み・書きがおさえられるものでなくてはならない。しかし、やる気と時間がある者には発展的に使うことができ、やる気がない者、あるいはやる気があっても時間がない者にとっても、あまり負担でなく基本的なものが入っていくようなものが望ましい。

書く練習などは、授業中に時間をとることはほとんど不可能なので、予習の時に必





う形にしていた。

学生の書き込みからは次の①と②の傾向が見てとれた。

①漢字の字体を練習するために設けてあるスペースは、漢字３字分であるが、予習のページをチェックしてみると、書けない学生は余白部分にたくさん練習してくる。書くことに問題がないと思われる学生に対しては「書けると思ったら、１字だけ、確認のために書いてください」と指導を行なっているが、ほとんどの学生は３字書いているようである。

このページを設けることによって、非漢字圏の学生は書きの学習に個々の能力に応じて時間をかけることが可能になった。授業中にそのための時間を使うことを考えたら非常に効率的である。

なお、Fクラスの場合は問題ページの最後に学習漢字を一通りは書く問題を作っており、教師が一度は学生の書いた字を見ることになる形になっている。したがって、最終的には字体の間違いや筆順の間違いがある場合も教師によってチェックされることになる。

②予習ページは基本的には辞書を使わなくてもすむような形を目指して作ってあるのだが、漢字能力が低い学生の場合は辞書を一生懸命繰って書いたと見られる書き込みが多く見られる。

そのような学生の場合、最初の時間に行なうテストによって、本人にもこのクラスでやっていくためにはかなりの努力が必要である旨を自覚させており、予習のページを使って事前に準備してくれば、授業についていけるかもしれないということも同時に伝えてある。そのため、自発的に懸命に勉強している様子が書き込みからも見てとれる。これまでの経験では、むしろそういう学生のほうが熱心に勉強し授業中足手まといにもならず、最終的にはレベルの高い学生に負けない成績を修めて学期を終わる傾向があるようである。

さらに、学生の書き込みからひとりで学習している時に犯し易い誤りを見つけることができたので、それを改善するために前項「３実際例」であげた基本的な考え方に６と１１の項目を加えた。また、書き込みの多かったものについては、学生の予習の負担を減らすために４の項目をさらに徹底することとし、さらに５の項目を加え、予習ページ作成上の基本的な考え方（１２項目）とした。

現在、授業中は予習ページを一切使っていない。予習ページは授業が始まる前に各自が使うこととしており、授業では学生が予習してきたことを確かめるためにカードで漢字を導入する形をとっている。これは貴重な授業時間を有効に使うためである。

## V．文章ページ

### 1 基本構想

練習問題は問題ページの方で作成しているが、少し視点を変えて大学の授業ならではの問題を作ることはできないだろうかと考えたのが文章ページである。

総合コースの漢字クラスは、教員と少人数の学生で授業を行なうクラスである。漢字教科書の中には答えを見れば自学自習することも可能なものが多く、この教科書でももちろんそういう部分はある。しかし、話し合うことのできる仲間がおり指導できる教員もいるわけであるから、みんなで話し合いながら、書きながら、学ぶという形があってもおもしろいのではないだろうか。答えが一つでなくてもかまわない。漢字あるいは漢字が含まれる語を実際に使いながら学習していくというような形があってもいいのではないか。

そこで、漢字1字を細切れの形で学ぶだけでなく、実際に使われている文章を用いて実践的に学ぶことはできないかと考え、文章ページという形にした。これは、漢字や漢字が含まれる語だけでなく、文章として実際に漢字が使われている場の中で関係の深い語などもあわせて学ぼうとする試みである。

漢字は漢字単独で使われるものではない。語の一部として使われるのである。語もまた単独で使われるわけではない。文章の中で使われて初めて意味を持つのである。したがって、文章の中で使われている意味が分かり、また文章を作ることができるようになってこそ、本当の意味で漢字が習得されたことになると思う。

文章の中で語としての漢字を学ぶことによって、文中での用法やどんな動詞や形容詞とともに使われているか、どんな表現の中で使われているか、あるいはもっと深くその場面でどのような意味で使われているか等、語（漢字）や細切れにした文からは学習しにくいものも学習することができる。

漢字1字あるいは漢字の入った語を1語だけ知っていても、実際にはなかなか使うのがむずかしい場合もある。例えば「令息」や「子息」という語の意味を知っていたとしても実際に文が作れるだろうか。作ってみようとする、その難しさがわかる。おそらく辞書的な意味を知っているだけでは困難であると考えられる。文章の中でこれらの語（漢字）を学べば使えるようになるかもしれないが、細切れの形で学んでも





- ・ 細長い小山のような波が陸の方を向いてだんだんおし寄せて来ます。
- ・ その小山のてっぺんがとがってきて、ざぶりと大きな音をたてて一度にくずれかかるのです。
- ・ しばらく間をおいてまたあとの波が小山のように打ち寄せて来ます。
- ・ くずれた波はひどい勢いで砂の上にはい上がって、そこらじゅうを白いあわで敷きつめたようにしてしまうのです。



下線が引いてある漢字はEクラスまでにすでに学んでいる漢字である。しかし、実際に文章を読ませてみると、既習の漢字であっても意外に読めない漢字が多い。この例の中では「小山」は「小」も「山」もAクラスで学ぶ漢字であるが、「こやま」と読むのはなかなか難しいようである。このような既習の漢字の学習も、文章ページでできる有意義な学習の一つであると考えている。

さて、授業ではこの文章を音読したあと、学生にどのような情景であるのか、1文ずつ説明させることにしている。説明しようとする、必然的に波と一緒に使われる動詞「うねる」「くだける」「おし寄せて来る」「くずれかかる」「打ち寄せる」についても、使ったり説明したりすることになる。また、波の音は「たてる」と表現されること、「ざぶり」や「ちゃぶりちゃぶり」など水の表現として用いられるオノマトペについてもどんな状態なのか考えたり、波の様子を表現する語として使ったりすることになる。さらに「波」と関連の深い「沖」「波打ちぎわ」「陸」がどの場所を表しているかも理解することになる。授業中の学生の様子を見ると、口頭で説明するだけでは状況がつかみにくいので、黒板に「ここが陸でここが海だと、このへんが沖で、このへんが波打ちぎわ」と簡単な絵を描いたり、ノートを2つ組み合わせて「小山」のような「波」の「てっぺんがとがってきて」「一度にくずれかかる」様子を模型的に作ってみせたりと、情景を理解するために言葉以外の手段を使ったりするような場面も見られる。それだけに言葉の表面的な意味だけに留まらず、理解は深いようである。

最後に「映画のように、この情景を思い浮かべることができますか」と尋ねると、学生は「できる」と答える。感想を聞くと、「波の様子を表現しようと思っても、これまでだったら『波がある』『波が大きい』くらいのことしか言えなかったが、この文章はすごい」というような感想が返ってくる。生の文章の力であり、有島武郎の力である。作例ではこのような文は到底作れないであろう。

もし、このあと「波の様子について自分の表現で書いてみましょう」というような問題でもつければ、作文的な要素を含むことになる。このままであれば読解的な部分が大きいということになるかと思うが、ただの読解とは目的も違い、語（漢字）中心になっている。語（漢字）が使えることを目的とした読解であり、作文であり、あるいは「話す」であり「聞く」であるということになるだろう。

【マルカム】 マクダフの姿が<sup>すがた</sup>見えません。それにご子息の姿も。

【ロ ス】 ご令息は武人の<sup>ちか</sup>誓いをまことごりっぱに果たされました。

ご成人されたばかりのごく短い生涯ではありましたが、その戦いの場所においていささかのひるむこともなく、ご成年にふさわしい武勇をはっきりと示されました。そしてあっぱれ、武人の最期をお遂げになられました。

(マクベス シェイクスピア作／大山俊一訳)

- 「ご子息」「ご令息」とは何のことですか。その表現について、文からわかることを教えてください。
- 聞き手の息子のことが話題の中心になっています。「武勇をはっきりと示す」「武人の最期を<sup>と</sup>遂げる」とは、この場面では具体的にはどういうことですか。息子は何をして、どうなりましたか。

- 聞き手の息子のことが話題の中心になっています。「武勇をはっきりと示す」「武人の最期を<sup>と</sup>遂げる」とは、この場面では具体的にはどういうことですか。息子は何をして、どうなりましたか。

学生は「息子」という語をこの段階ですでに知っている。「子息」「令息」はともに息子の意味ではあるが、どのような場でも使えるような語ではない。辞書を調べると、「子息：『むすこ』の意の漢語的表現、令息：他人・相手のむすこの敬称」（『新明解国語辞典（第5版）』三省堂）となっているが、これだけの説明ではとてもではないが使うことはできまい。「子息」のような漢語的表現がなじむような場面、文体、表現はかなり特殊なものであると思う。また「令息」はどのような時に使える語なのか、「令息」が使えるほどの敬意がどのような語を使ってどのような形で表現されるのかも難しいと思う。

この文章はかなり特殊な文体で書かれている。最近はあまり聞かなくなった漢語調の文体である。「マルカム」と「ロス」の話し方には、聞き手と聞き手の息子に対する仰々しいまでの敬意が感じられる。このような文章であれば、「子息」「令息」の使い方を学ぶことができるだろう。そして、それは文章であるからこそ、学ぶことができるのである。

次の例も、短文の作例では学べない語の使い方の例である。(この課の学習漢字は＜片＞274, この教科書では＜血＞80, ＜刺＞127)

【マクベス】 顔に血が付いているぞ。

【刺客 1】 それならバンクォウの血です。

【マクベス】 それなら奴の中にあるよりも、お前の外側<sup>そとがわ</sup>に付いていたほうが<sup>やつ</sup>いい。

きゃつは片づけたか？

【刺客 1】陛下、奴の喉を搔<sup>へいか</sup>っ切りました。私めがや<sup>のど</sup>ってやり<sup>か</sup>ました。

(マクベス シェイクスピア作／大山<sup>しゅんいち</sup>俊一訳)

■「きゃつは片づけたか？」とは、この場合どういう意味ですか。

「片づける」は、実際の文章の中では上の例のように「殺す」などの意味で用いられることもある。上の文章のような生き生きとした文章の中で用いられてこそその意味で用いることができるが、これを作例の短文で「彼女を片づける」「山田太郎を片づける」などとしたとしても、おかしい日本語にしかない。

次は、実際に語（漢字）を使う時のやり方に近いと考えられる問題例である。この課の学習漢字は＜曇＞231，＜届＞229，教科書では＜草＞176，＜帽＞282である。

ぼくはあわてて教室を飛び出しました。広い野原に来ていました。どっちを見ても短い草ばかりはえた広い野です。真っ暗に曇った空にぼくの帽子が黒い月のように高くぶらさがっています。とても手も何も届きはしません。

(有島武郎「ぼくの帽子のお話」)

■ この場面の天気は 次のどのことばで表される天気に近いでしょうか。

曇天・薄曇り・高曇り・本曇り・雨曇り・花曇り

■ 「薄曇り」「高曇り」「花曇り」は どのような曇り方だと思いますか。

文章から天気がどのようなものであるかは読み取れる。空は「真っ暗に曇っ」ている。そういう曇り方をしている時にどの語を使うことが可能であるかを考えるのがこの問題である。これは実際に自分が語を使う時のやり方に近いと言えよう。状況があつて、意味の重なる、似ている熟語が複数ある。どの熟語を選ぶのが、この場では適当なのか考えさせる問題である。

この場合、答えはもちろん一つではない。「真っ暗に曇った空」なのであるから、「曇天」を選んでももちろん間違いではない。学生のほとんどは「くもり」という語しか知らないような状態であるので、学生の話の中から「くもりのことを、漢語的に表現するとしたら曇天ですね」とし、「では、＜真っ暗に＞がよくわかる語はどれでしょうね」と投げかける。そうすると、「本曇り」「雨曇り」などということになるが、この二つの語も近い語であるが、まったく同じ意味ではない。どう違うのか、どんな状態なら「本曇り」が使えて「雨曇り」は使いにくく、どんな状態なら「雨曇り」が使えて「本曇り」はだめなのか、学生はいろいろと話し合っている。

(グリム童話「三枚の蛇の葉」)

① 恥ずかしくないまね  
② 恥ずかしいまね

辞書で「恥知らず」の説明を見ても、分かったような、でもなんとなく煙にまかれているような感じであり、そうするだけではまだ本当に分かったとは言にくい状態であるように思う。実際の文章で、意味のある形で押さえて初めてその意味が納得できる例であろう。<sup>注4</sup>

- 81 -

このように、実際の文章を使うことによって、いろいろな意味で細切れの文ではむずかしい学習をすることが可能である。上記の例は現在Fクラスで使っているものであるが、学生たちは非常におもしろがり、いろいろな発言をする。漢字の学習というと、答えの決まった問題をこなしていくような単調なものになりがちであるが、実際の文章を読むことによって、バリエーションに飛んだ授業が可能になっている。また、学生は「楽しい」と評価してくれることが多いが、それは文章自体に魅力があり、中身があるからであろう。

### 3 出典と進捗状況

Fクラスの文章ページについては藤田が担当し、不十分ではあるがすべての課について一通りの問題を作ったところである。Eクラスについては、問題ページを優先させなくてはならないという都合上、問題ページがある程度できてから作ることになっており、現在はまだ作成されていない。

各課で使用した文章の出典は資料2の表のとおりである。

## VI. 問題ページ

### 1 概要

予習ページ、文章ページを経て、問題ページは総合練習の意味合いを持つページである。予習ページは、各課の配当漢字の基本的意味を学生に確認させながら読み書きの練習ができるように配慮したものであるが、問題ページはその延長線上にあり、(a)基本問題、(b)応用問題の二つのパートで構成されている。いずれの問題もなるべく既習漢字を用いた熟語等を提示し、未習漢字にはルビを付している。問題の具体例については後に示す。

(a)は、次に記すような問題等からなる。

(1) 漢字の読み（訓読み）に付随する意味との関連を追求し認識させる問い。

(問題例1参照)

(2) 意味上一つの範疇に属する熟語についてその意味を考えさせる問い。

(問題例2参照)

(3) 動詞形の用法について考えさせる問い。

① 助詞との関連について（当該漢字が動詞形を持ち、複数の助詞を前置する場合は助詞との関連を問題として取り上げる。）（問題例5参照）

② 自動詞・他動詞の対応について（当該漢字が動詞形を持ち、自動詞・他

動詞の対応のある場合は読みとともに自動詞・他動詞の対応問題として  
取り上げる。）（問題例 5 参照）

(4) 同じ読み（音読み）を持ち、しかも、形がよく似ている漢字（同音類似形字）  
についてそれぞれの漢字の意味を確認させる問い。（問題例 4 参照）

(b)は、慣用句やことわざ等に範囲を広げた問題からなる（特殊な読みについても、  
日常的に使われる語彙に限定し取り上げる）。（問題例 3 参照）

## 2 基本構想

(a)の問題は、読み（音読み・訓読み）とそれに付随する意味との関係を認識させる  
ことが主眼である。漢字の読みについては漢字圏の学生であっても、困難を伴う  
という状況があり、特に、複数の訓読みを持つ漢字については、それぞれ意味との  
対応を明確に示すことで、読みと意味との関係を学生に十全に認識させ定着を図る  
ものである。

また、漢字の読みと併せて自動詞・他動詞の対応や動詞と助詞との対応を問題とし  
て取り上げるのは、これらが学生が苦手とするところのものだからであり、それそれ  
の対応を再認識させることが問題の意図するところである。

(b)の問題は、当該漢字を用いる慣用句やことわざ等に範囲を広げ、多角的観点から  
漢字をとらえるものである。例えば、自動詞・他動詞の対応についても、(a)の問題は  
専ら助詞との対応を問題にするものであるのに対し、(b)の問題は自動詞文と他動詞文  
の対応としてそれぞれセンテンス全体の意味の違いを考えさせるような問題として提  
示する。これについては次項で触れる。

また、ことわざの問題に関しては、学生にそれに相当する自国での例を紹介させる  
など、各学生が言語の背景に存する文化の相違に思いを致す契機とする。

上記のように、問題ページの(a)基本問題は単語レベルでの漢字学習であり、(b)はフ  
レーズ（センテンス）レベルでのそれである。この(b)応用問題による漢字学習は、本  
漢字教材作成に当たったの特色と考えているものの一つである。問題ページは、(a)・  
(b)併せて次回（翌週）分を前もって学生に渡し準備させる。

## 3 実際例

### 1) 予習ページとの関連

以下に問題ページ（(a)基本問題・(b)応用問題）の一部を取り上げ、予習ページとの  
関連について述べる。

・問題例1「易」 ((a)基本問題)

\*意味の違いを確認しながら正確に読みましょう。

- 1 貿易 ( )      2 不易 ( )      3 容易 ( )  
4 交易 ( )      5 平易 ( )      6 易者 ( )  
7 安易 ( )      8 簡易 ( )      9 改易 ( )  
10 易學 ( )

「易」の問題については、予習ページにおいて「変化する、取り換える、占いの法、手軽だ」の意味を確認させつつ読み書きの練習をさせている。学生は、それらの意味を再確認しながら、問題ページの基本問題に答えることになる。

・問題例2「況」 ((a)基本問題)

\*どんな様子を表す言葉でしょうか。( )に読みを書き,〔 〕に説明してみましょう。

- |   |    |     |     |
|---|----|-----|-----|
| 1 | 概況 | ( ) | [ ] |
| 2 | 近況 | ( ) | [ ] |
| 3 | 好況 | ( ) | [ ] |
| 4 | 盛況 | ( ) | [ ] |
| 5 | 戰況 | ( ) | [ ] |
| 6 | 不況 | ( ) | [ ] |

「況」の問題については、予習ページにおいて「様子・有様，比べる」の意味を確認させつつ読み書きの練習をさせている。学生にはそのうちの「様子・有様」の意味を再確認させながら，発展的にその意味で使う熟語の意味を考えさせるものである。

・問題例3「角」 ((b)応用問題)

\*どんな意味になるのか考えてみましょう。

- 1 視角と死角?      2 等角と頭角?      3 頭角を現す?

「角」の問題については、予習ページにおいて確認させた音読みの二つの意味（「動物のつ」と「相交わる二直線の作る図形」）について、発展的に学生に考えさせるも



のである。1・2は同音異義語であるが、それぞれの意味を考えさせるもの、3は慣用句の意味を考えさせるものである。

## 2) 基本問題と応用問題の関連

次に、問題ページの一部を取り上げ「(a)基本問題・(b)応用問題」間の関連について述べる。



・問題例4「挟」(a)基本問題

\* どの漢字（「キョウ（挟・狭・峽）」）が入りますか。

- |             |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1 (     ) 谷 | 2 偏 (     ) | 3 海 (     ) | 4 (     ) 撃 |
| 5 (     ) 義 | 6 (     ) 小 | 7 広 (     ) | 8 浅 (     ) |



「挟」の問題については、予習ページにおいて確認させた漢字の意味に加えて、既習漢字である「狭」や「峽」との相違を学生に識別させ、同音類似形字であるそれぞれの漢字の意味を再確認させるものである。

また、「挟」については、複数の助詞を前置する動詞形を持つが、「峽」や「狭」についても名詞形・形容詞形・動詞形をそれぞれ再確認させる。

さらに応用問題においては、次に示す問題例5のように、単に助詞との対応のみを問題にするのではなく、発展的にフレーズ全体の意味を考えさせる問題として提示する。



・問題例5「挟」・「詰」(b)応用問題

\* どんな意味になるのか考えてみましょう。

- |         |          |          |          |
|---------|----------|----------|----------|
| 1 口を挟む？ | 2 小耳に挟む？ | 3 息が詰まる？ | 4 息を詰める？ |
|---------|----------|----------|----------|



「詰」については、自動詞・他動詞の対応のある動詞形を持つが、応用問題ではフレーズ全体の意味を学生に考えさせる問題として提示する。

また、それぞれの意味を考えさせた上で、それらの表現を用いた短文を作成させるなどしてその定着を図る。

応用問題については多少難易度の高いものであっても、予習ページにフィードバックすれば解答の糸口があるように工夫している。





語彙が未習である場合を考慮し、当該課の学習漢字を除いた選択肢を設け、その中から選べるように配慮する。小テストは問題ページを終えた翌週の回（次回）に時間を取って実施する。限られた時間内に実施することになるため、各テストとも各課の学習の定着度を確認するという性格のものである。

次に示すように、小テストは短文の中で提示された漢字の読み書きを要求するものであるから、(a)読み取りテスト、(b)書き取りテストともに、問題文の文脈の中で、当該漢字語彙についてのある程度の意味が把握できるような問題を作成する。(a)読み取りテストの終了後、(b)書き取りテストを実施する。

## 2 実際例

以下に小テストページの一部を示す。



・問題例10(小テスト)

(a)読み取りテスト

\*下線の言葉を読みましょう。

- 1 運動が高まる中、換気設備の整った喫煙<sup>えん</sup>スペースが登場した。  
( )
- 2 例えば「急がば回れ」のように、表現の上では一見矛盾<sup>むじゅん</sup>しているようであり、よく考えてみると真理になっっている説を逆説<sup>ぎせつ</sup>という。  
( )
- 3 高所恐怖<sup>ふしろう</sup>症の彼は高い所が苦手だ。  
( )

(b)書き取りテスト

\*下線の言葉を書きましょう。下の□の中には該当する漢字の一部があります。

- 1 山頂<sup>ちよう</sup>から大自然のパノラマをまんきつした。  
( )
- 2 「急がば回れ」というのはぎやくせつ<sup>ぎやくせつ</sup>の一例だ。  
( )
- 3 愛妻家<sup>あいさいか</sup>やきょうさいか<sup>きょうさいか</sup>という言葉はあるが、なぜか愛夫家などという言葉はない。  
( )

…	…	家	満	妻	説	…	…
---	---	---	---	---	---	---	---



## VIII．今後の課題

本プロジェクトはいまだ発展途上にあるため、最も進捗している予習ページでさえ、DBの公開実施に向けた技術的問題、特にセキュリティ問題が未解決の状態であると言える。

文章ページについては、現在文学を出典とするものが多くなっている。これは、「文学作品を通して実際に使われている状態の語（漢字）を学ぶのはどうだろうか」というところからスタートしたためである。しかし、プロジェクトを進めて行く過程において、もっといろいろな出典からのものを用いた方がよいのではないか、いろいろな文章、文体があったほうがよいのではないかという意見が出て、その方向に修正しつつある。現在の出典は、小説、随筆、童話、新聞記事、戯曲、小冊子、実用書、解説などとなっているが、今後使いたいと考えているのは自然科学系の分野のものや心理学や経済学の分野のものである。また新聞記事でもニュースだけではなく、論説などからも問題を作ることができたらと考えている。

また、扱う語（漢字）についても熟語の問題を多くし、漢字熟語を学ぶ必要性の高い上級クラスにふさわしい問題を作ることが検討課題の一つである。

次に、問題ページと小テストページについてであるが、1課は13字からなり、50音順によるグループ構成であることもあり、各課を通しての統一された問題のひな型を作ることが難しい。また、漢字の成り立ちについての知識提供を予習ページから問題ページへと連携させることが学習効果を高めると考えられるが、それをどのような形で進めていくかも課題である。

さらに今後、各ページが学生の反応を踏まえて改善され、より充実したものになっていった時、1コマ（90分）1課というペースで進むことが容易ではなくなるという問題が生じることも予想される。各課の配当漢字数の設定自体も再考を迫られるであろう。

### 【参考文献】

- 太田 亨（2000）「『総合日本語コース』の創設と今後の展望」『金沢大学留学生センター紀要』3：141-150  
加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子（1990）『Basic Kanji Book Vol.1』，改訂版，凡人社  
加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子（1989）『Basic Kanji Book Vol.2』，第2版，凡人社  
加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智（1996）『Intermediate Kanji Book 漢字1000Plus Vol.1』，第2版，凡人社  
加納千恵子・清水百合・石井恵理子・竹中弘子・阿久津智・平形裕紀子（2001）『Intermediate Kanji Book 漢字1000Plus Vol.2』，凡人社  
国際交流基金・日本国際教育協会（1994）『日本語能力試験 出題基準』，凡人社  
国立国語研究所（1976）『現代新聞の漢字（国立国語研究所報告56）』，秀英出版

# 資料 1

1	漢	カン	49	逆	ギャク	97	香	コウ
2	犬	ケン	50	久	キュウ	98	候	コウ
3	借	シャク	51	吸	キュウ	99	耕	コウ
4	衣	イ	52	級	キュウ	100	航	コウ
5	依	イ	53	給	キュウ	101	黄	コウ
6	委	イ	54	巨	キョ	102	鋤	コウ
7	胃	イ	55	居	キョ	103	谷	コク
8	偉	イ	56	許	キョ	104	骨	コツ
9	域	イキ	57	御	ギョ	105	込	こむ
10	宇	ウ	58	漁	ギョ	106	査	サ
11	羽	ウ	59	叫	キョウ	107	砂	サ
12	榮	エイ	60	供	キョウ	108	差	サ
13	銳	エイ	61	況	キョウ	109	才	サイ
14	易	エキ	62	挟	キョウ	110	採	サイ
15	液	エキ	63	恐	キョウ	111	祭	サイ
16	越	エツ	64	胸	キョウ	112	菜	サイ
17	煙	エン	65	境	キョウ	113	在	ザイ
18	塩	エン	66	競	キョウ	114	材	ザイ
19	億	オク	67	極	キョク	115	財	ザイ
20	河	カ	68	玉	ギョク	116	罪	ザイ
21	菓	カ	69	偶	グウ	117	咲	さく
22	靴	カ	70	隅	グウ	118	昨	サク
23	介	カイ	71	掘	クツ	119	冊	サツ
24	灰	カイ	72	訓	クン	120	札	サツ
25	皆	カイ	73	敬	ケイ	121	刷	サツ
26	角	カク	74	景	ケイ	122	殺	サツ
27	掛	かける	75	傾	ケイ	123	察	サツ
28	干	カン	76	警	ケイ	124	皿	さら
29	刊	カン	77	芸	ゲイ	125	散	サン
30	甘	カン	78	迎	ゲイ	126	伺	シ
31	汗	カン	79	劇	ゲキ	127	刺	シ
32	缶	カン	80	血	ケツ	128	枝	シ
33	巻	カン	81	件	ケン	129	脂	シ
34	乾	カン	82	肩	ケン	130	詞	シ
35	患	カン	83	軒	ケン	131	児	ジ
36	丸	ガン	84	堅	ケン	132	湿	シツ
37	含	ガン	85	権	ケン	133	捨	シャ
38	岸	ガン	86	賢	ケン	134	種	シュ
39	机	キ	87	戸	コ	135	舟	シュウ
40	祈	キ	88	枯	コ	136	拾	シュウ
41	季	キ	89	庫	コ	137	祝	シュク
42	寄	キ	90	雇	コ	138	述	ジュツ
43	規	キ	91	互	ゴ	139	処	シヨ
44	幾	キ	92	誤	ゴ	140	緒	シヨ
45	技	ギ	93	光	コウ	141	除	ジョ
46	疑	ギ	94	肯	コウ	142	床	シヨウ
47	喫	キツ	95	紅	コウ	143	承	シヨウ
48	詰	キツ	96	荒	コウ	144	将	シヨウ

145	章	ショウ		195	畜	チク		245	髪	ハツ
146	賞	ショウ		196	仲	チュウ		246	抜	バツ
147	状	ジョウ		197	虫	チュウ		247	犯	ハン
148	城	ジョウ		198	宙	チュウ		248	判	ハン
149	晷	ジョウ		199	柱	チュウ		249	坂	ハン
150	蒸	ジョウ		200	駐	チュウ		250	板	ハン
151	植	ショク		201	貯	チョ		251	版	ハン
152	触	ショク		202	兆	チョウ		252	般	ハン
153	臣	シン		203	頂	チョウ		253	否	ヒ
154	身	シン		204	沈	チン		254	匹	ヒキ
155	辛	シン		205	珍	チン		255	筆	ヒツ
156	針	シン		206	追	ツイ		256	氷	ヒョウ
157	震	シン		207	庭	テイ		257	秒	ビョウ
158	吹	スイ		208	程	テイ		258	猫	ビョウ
159	声	セイ		209	泥	デイ		259	瓶	ビン
160	姓	セイ		210	滴	テキ		260	布	フ
161	星	セイ		211	殿	デン		261	怖	フ
162	清	セイ		212	徒	ト		262	浮	フ
163	勢	セイ		213	途	ト		263	婦	フ
164	昔	セキ		214	塗	ト		264	符	フ
165	隻	セキ		215	灯	トウ		265	膚	フ
166	責	セキ		216	逃	トウ		266	武	ブ
167	跡	セキ	E	217	倒	トウ		267	舞	ブ
168	積	セキ	F	218	凍	トウ		268	封	フウ
169	績	セキ		219	党	トウ		269	幅	フク
170	籍	セキ		220	盜	トウ		270	腹	フク
171	絶	ゼツ		221	湯	トウ		271	沸	フツ
172	泉	セン		222	筒	トウ		272	粉	フン
173	船	セン		223	塔	トウ		273	兵	ヘイ
174	祖	ソ		224	童	ドウ		274	片	ヘン
175	双	ソウ		225	銅	ドウ		275	辺	ヘン
176	草	ソウ		226	導	ドウ		276	編	ヘン
177	搜	ソウ		227	毒	ドク		277	補	ホ
178	掃	ソウ		228	突	トツ		278	募	ボ
179	装	ソウ		229	届	とどく		279	暮	ボ
180	燥	ソウ		230	鈍	ドン		280	宝	ホウ
181	憎	ゾウ		231	曇	ドン		281	坊	ボウ
182	蔵	ゾウ		232	乳	ニュウ		282	帽	ボウ
183	臈	ゾウ		233	燃	ネン		283	棒	ボウ
184	息	ソク		234	悩	ノウ		284	質	ボウ
185	孫	ソン		235	脳	ノウ		285	磨	マ
186	尊	ソン		236	波	ハ		286	枚	マイ
187	損	ソン		237	破	ハ		287	埋	マイ
188	他	タ		238	拝	ハイ		288	末	マツ
189	袋	タイ		239	杯	ハイ		289	夢	ム
190	濯	タク		240	背	ハイ		290	娘	むすめ
191	炭	タン		241	麦	バク		291	命	メイ
192	探	タン		242	爆	バク		292	迷	メイ
193	池	チ		243	箱	はこ		293	綿	メン
194	恥	チ		244	肌	はだ		294	毛	モウ

295	勇	ユウ	324	腕	ワン	"	梅雨	つゆ
296	与	ヨ	付表	明日	あす	"	凸凹	でこぼこ
297	余	ヨ	"	田舎	いなか	"	手伝う	てつだう
298	預	ヨ	"	笑顔	えがお	"	時計	とけい
299	幼	ヨウ	"	お母さん	おかあさん	"	友達	ともだち
300	陽	ヨウ	"	伯父	おじ	"	兄さん	にいさん
301	溶	ヨウ	"	叔父	おじ	"	姉さん	ねえさん
302	腰	ヨウ	"	お父さん	おとうさん	"	博士	はかせ
303	踊	ヨウ	"	大人	おとな	"	二十	はたち
304	浴	ヨク	"	伯母	おば	"	二十歳	はたち
305	欲	ヨク	"	叔母	おば	"	二十日	はつか
306	翌	ヨク	"	お巡りさん	おまわりさん	"	一人	ひとり
307	卵	ラン	"	風邪	かぜ	"	二人	ふたり
308	裏	リ	"	仮名	かな	"	二日	ふつか
309	陸	リク	"	為替	かわせ	"	吹雪	ふぶき
310	律	リツ	"	昨日	きのう	"	下手	へた
311	粒	リュウ	"	今日	きょう	"	部屋	へや
312	領	リョウ	"	果物	くだもの	"	迷子	まいご
313	緑	リョク	"	今朝	けさ	"	真っ赤	まっか
314	輪	リン	"	景色	けしき	"	真っ青	まっさお
315	涙	ルイ	"	今年	ことし	"	土産	みやげ
316	令	レイ	"	差し支える	さしつかえる	"	息子	むすこ
317	戻	レイ	"	芝生	しばふ	"	眼鏡	めがね
318	零	レイ	"	上手	じょうず	"	紅葉	もみじ
319	齡	レイ	"	白髪	しらが	"	木綿	もめん
320	恋	レン	"	素人	しろうと	"	八百屋	やおや
321	労	ロウ	"	相撲	すもう	"	浴衣	ゆかた
322	録	ロク	"	足袋	たび	"	行方	ゆくえ
323	湾	ワン	"	一日	ついたち			



## 資料2 文章ページ出典一覧

L14	有島 武郎	「火事とポチ」	L22	北 杜夫	「処女」	
		「おぼれかけた兄妹」			「童女」	
	中沢 けい	「名もない草もある」		シェイクスピア	「マクベス」 大山 俊一 訳	
		「僕が僕と言う理由」		毎日新聞社季刊小冊子より	「歯がたたぬブリ」 （『字件ですよ！』）	
「記憶の島」						
L15	グリム童話	「ブレーメンの音楽隊」	L23	北 杜夫	Mainichi Daily Mail News No.1806 1999-04-16	
		「金のがちょう」			Mainichi Daily Mail News No.1780 1999-04-01	
		「野ちしゃ」			Mainichi Daily Mail News No.1830 1999-04-29	
		「マリアの子ども」			Mainichi Daily Mail News No.1788 1999-04-06	
	塚越 敏	『グリム童話』解説 「グリム兄弟の生涯と業績」				「どくとるマンボウ氷海をゆく」 「果物の島の思い出」
L16	グリム童話	「漢和辞典の楽しい読み方」	L23	北 杜夫	毎日新聞社季刊小冊子より	「高野山へ行く」 （『字件ですよ！』）
		「命の水」				
		「池にすむ水の精」			Mainichi Daily Mail News No.1793 1999-04-09	
		「三枚の蛇の葉」			Mainichi Daily Mail News No.1812 1999-04-19	
L17	スチーブenson	「宝島」	L24	小葉 武史	Mainichi Daily Mail News No.1812 1999-04-27	「Sophia」
	有島 武郎	「一房の葡萄」			毎日新聞社季刊小冊子より	「オーミステーク」 （『字件ですよ！』）
		「ぼくの帽子のお話」			毎日新聞社季刊小冊子より	「くほう」への思い （『字件ですよ！』）
		「碁石を飲んだ八っちゃん」				
		「真夏の夢－ストリンドベルヒー－」				
		「かたわ者」				
	吉本ばなな	「TUGUMI」			北 杜夫	「処女」
L18	吉本ばなな	「TUGUMI」	L25	小葉 武史	「Sophia」	
	小泉 八雲	「むじな」 平井 呈一 訳		大山 俊一	『マクベス』解説	
L19	吉本ばなな	「TUGUMI」		岡本かの子	「鮎」	
	有島 武郎	「ぼくの帽子のお話」		毎日新聞社季刊小冊子より	「コロンブスの卵」 （『字件ですよ！』）	
		「おぼれかけた兄妹」				
L20	中沢 けい	「花の季節」	L26	小葉 武史	「Sophia」	
		「お茶の時間です」			有島 武郎	（翻案）「燕と王子」
	グリム童話	「野ちしゃ」		中沢 けい	「風と桜とえんぴつと」	
		「三枚の蛇の葉」			「記憶の島」	
		「川とノリオ」			「お風呂大好き」	
	小泉 八雲	「むじな」 平井 呈一 訳				
L21	グリム童話	「ヘンゼルとグレーテル」				
	中沢 けい	「風と桜とえんぴつと」				
		「百年の夢」				

## 上級漢字教材作成プロジェクトについて

太田 亨・藤田佐和子（金沢大学留学生センター）・中村 朱美（佐賀大学留学生センター）

### 要 旨

本稿は、金沢大学留学生センター・総合日本語コースの漢字 E 及び F クラス用の漢字教材を作成するプロジェクトである、「上級漢字教材作成プロジェクト」の立ち上げに関わってきた筆者らによる、プロジェクトの進捗状況を報告するものである。

まず、本プロジェクトで扱う上級漢字を324字と熟字訓56語と認定した。そして、五十音順に並べてほぼ真ん中の167字／168字間で区切り、暫定的に前半を E クラス、後半を F クラスに振り分けて、授業で扱う必要から各13課分に配置した。

次に、筆者らは各漢字に対して様々な情報や問題等を盛り込みたいと考え、情報や問題の種類ごとに「ページ」という形で独立したユニットを立てた。漢字情報源としての「予習ページ」を階層の最も上に置き、「問題ページ」「文章ページ」「小テストページ」の3つを統括的する形にデザインした。

本稿第V章以降では、各ページの概要や作成上の基本方針、そして授業での使用方法を具体的に述べている。

さらに、これらのページをデータベース（DB）化して管理し、将来的に Web 上で公開することを目指す予定である。平成13年末現在、「予習ページ」の DB 化がひとまず完了したところである。

## A Report on the Elaboration Project of Kanji-Materials for Advanced-level Students

Akira OTA, Satoko FUJITA and Akemi NAKAMURA

### ABSTRACT

This article reports an elaboration project of kanji-materials for advanced-level (E and F) students of the Integrated Japanese Language Program at KUISC.

We have identified first 324 kanjis and 56 words with idiomatically Japanese readings as the advanced-level ones, dividing them *provisionally* almost at the mean number of 324, i.e., between #167 and #168 kanji and distributing them into 13 lessons at each level.

We have also intended to incorporate in each kanji various data like strokes, its radical and usage, etc., dividing them as "Independent Pages" : "(Pages) for Problems", "for Readings", "for Quiz" and "for Preparation". This last one is the main page designed to organize the others.

We describe from the chapter V of this paper outlines for each page and concretely how to use in classes.

Finally we are going to intend to manage these pages with database software so as to open them on Web in the future. At the moment we have finished inputting data into the main pages "for Preparation".